

高浜原発4号機が自動停止

原子炉内の中性子「急減」検出

関西電力は30日、高浜原発4号機（福井県高浜町、出力87万キロワット）が自動停止した、と発表した。運転中の原子炉内の状況を監視する検出器から異常を知らせる警報があったためだという。環境への放射線の

影響はないとしている。現時点で原因は不明で運転再開のめどはたっていない。関西電力によると、同日午後3時21分に、4号機に設置されている検出器4台のうち2台以上が、核分裂で放出される中性子の急減を示

したため、警報を発信した。炉心部などの重要な機器に損傷はなく、放射能漏れは確認されていないという。けが人もなかった。炉内に異常があったのか、計器の誤作動なのかはわからず、冷温停止させて原因を調べていくという。

4号機が自動停止したのは2016年2月29日以来で、今回3回目。当時、発電と送電を始める作業で発

電機が自動停止し、直後に原子炉も止まった。2025年に運転期間40年を迎える。関電は3、4号機について特別点検を行い、「60年までの運転は問題ない」として昨年11月に20年間の運転延長を原子力規制委員会に申請した。（吉田貴司）